

『見て見て、〇〇さんよ』『桜がきれいだったね』 「おもいでばこ」で広がる介護施設利用者の 笑顔とコミュニケーション

社会福祉法人 ^{いっさ}樹会「特別養護老人ホーム 大井苑」様

「特別養護老人ホーム大井苑」は、利用者の人生を本人と職員が共有することで、温もりのあるケアの提供を心がけています。その大井苑にとって、なくてはならないものとなっているのがデジタルフォト・アルバム「おもいでばこ」です。大画面テレビに「おもいでばこ」を接続、スライドショーで思い出の数々をとらえた写真を映せば、利用者の方々に笑顔が浮かび、会話も絶えないといいます。



写真：(左から)大井苑 介護福祉士 齊藤夏奈氏、施設長 岩淵英子氏、介護主任 介護福祉士 小倉一樹氏

「住み慣れた我が家」の 延長を心がけたケアを提供

埼玉県ふじみ野市の「特別養護老人ホーム 大井苑」は全室個室、100床から成る施設です。慢性期疾患をかかえた高齢者の方の暮らしを支えるため、協力医療機関との連携による透析の方の受け入れや、ショートステイも行なっています。

そんな大井苑が大切にしているのが「ナラティブ(物語)」という考え方です。施設長を務める岩淵氏は、「ご利用者一人ひとりに、今まで生きてきた物語があります。その物語を大切にしようという思いから、利用者の今までの人生を深く知り、これからの人生の一部を利用者と家族と職員が共に紡いで行けるように、様々な取り組みを実践しています」と説明します。

そうした大井苑が掲げる「ナラティブ」の考え方に基づいたケアを実践していくために、「なくてはならないもの」のひとつとして、岩淵氏が語るのはバッファローのデジタルフォト・アルバム「おもいでばこ」です。

苑内の憩いの場である「ナラティブカフェ」と呼ばれるカフェには、大画面テレビと共に「おもいでばこ」が設置され、苑での日常や家族との写真、施設行事など、数々の物語をとらえた写真がスライドショーで上映されています。

大画面に投影された写真が 楽しい記憶を呼び覚ます

主にナラティブカフェがオープンしている午後の時間帯等に、苑内での日常生活やイベントなど



ナラティブカフェに設置された大画面テレビに「おもいでばこ」は接続され、撮影された写真がスライドショーで再生されています

で撮影した写真を「おもいでばこ」のスライドショーで流しています。

岩淵氏は、「大井苑には、記憶を留めることが困難な認知症の方も、多数入居されています。認知症の方にとって、写真は様々な記憶を思い出すきっかけになるようです。これまでもアルバムなどで写真をご覧頂いていましたが、ナラティブカフェに来て、『おもいでばこ』で大画面で投影される写真を見ると、さまざまな記憶がよみがえるようで笑顔になることも多く、自室で過ごしている時とは違った表情が現れています」と、その効果を話します。

また、小倉氏も「例えば4月初旬にはお花見に出かけましたが、数日経ってからその時の写真を再生しても、『行ったね、お花見』『桜がきれいだったね』『来年も行こうね』などの会話が出ることも多々あります。大画面で見る写真が、利用者の方々の様々な記憶を呼び覚ますきっかけになっていることを実感しています」と言います。

利用者どうしや職員との コミュニケーションも活性化

「おもいでばこ」は、利用者の方々のコミュニケーションの活性化にも役立っています。

ナラティブカフェの店長も担当する齊藤氏は、「利用者の方々が誘い合ってナラティブカフェにいらっしゃるのですが、『おもいでばこ』の設置後、以前よりも楽しそうに会話をする姿が増えた印象があります。利用者の方どうしが、スライドショーを見ながら『見て見て、〇〇さんよ』『あらやだ、こんな写真、いつの間に撮ったの』など、会話が盛り上がっています」と、その様子を説明します。

加えて、職員と利用者との間でも写真が楽しい会話のきっかけになることも多いといいます。小倉氏は、「私が撮影していない写真だと、何をしていた



大画面で見る写真は、利用者だけでなく、職員との会話も弾みます

た時を撮影したのかわからないこともあります。利用者の方自らが『これは、〇〇をした時の写真だよ』などと教えてくれて、そこから会話が広がることもよくあります。このように職員と利用者の方々のコミュニケーションの活性化にも、『おもいでばこ』は一役買っています」と説明します。

利用者からこぼれる笑顔に 職員も優しい気持ちに

大画面で再生された写真は、紙のアルバムと違って撮影された利用者の表情がよりリアルに伝わってきます。そうしたことから、利用者の一人ひとりのナラティブを、より深く理解することにもとても有用であると岩淵氏は話します。

さらに、「おもいでばこ」は、職員のケアに対する気持ちにも大きな影響を与えているそうです。

岩淵氏は、「『おもいでばこ』が再生する写真を見て、利用者やそのご家族から自然に笑みがこぼれています。そうした楽しそうな姿をみるたびに、職員たちもさらに優しい気持ちになっていくのが感じられます。私自身も含めて、改めて『もっと写真を撮ったり、もっと利用者の方々が楽しんでもらえたりするような取り組みをしていこう』という思いが沸き上がります。そうしたことから、職員の意識向上にも、確実につながっています」と評価します。

デジタルフォト・アルバム
おもいでばこ
導入製品 PD-1000シリーズ 詳しくは 21ページ



詳しくはWebで
omoidebako.jp

